

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			ひろ志	やぶつばき 道を	やぶつばき マスキ 道を	音思		暦文 喜夫	土璃	久夫 土璃 俳翁 秀子	暦文 土璃 ひろ志 みずほ	のり子	光雲2 山菜	霜里 道を 高原 六弦 凡土 きいち 京子 みづる
音集め寝つけぬ夜や冴ゆる夜	寒波去り人も草木も深呼吸	春雪やしばし試練の夏タイヤ	春光が届く畳のへやの奥	料峭の風に漂ふ鳶の笛 <small>季節がよく効いていて、端正な句だと思えます。句全体の醸し出す季節が良いと思います。</small>	耽読の記憶おぼろに菜の花忌 <small>菜の花の時季になると司馬遼太郎のことを思い出される作者の感慨に共感です。菜の花忌は司馬遼太郎氏の忌日。夢中で読んだのに、今となっては内容を詳しくは思いだせない。しかし、良かったなあという感銘は今も鮮明だ。「耽読の記憶」私も司馬遼を読みました。</small>	雪だるま駐車場にてお留守番 <small>ほつとする、心温まる句です。</small>	春立つや鍵盤の上指弾む	添ふことを決めた彼の日の黄楊の花 <small>添うことを決めた彼の日の表現がうまい。添うことを決めた日 いいですね！そうゆうお方にお会いしたいです。</small>	ネオン街映す運河に浮寝鳥 <small>「浮寝鳥」がいいです。人間と動物の共存について考えさせられます。</small>	竹林の騒つき初む雪垂 <small>雪垂を竹林の音で表現していて素敵です。「雪垂」がいいです。静かに春めいているのが感じられます。春を感じ竹林の雪がそわそわと動く様子を切り取って良句。情景の描写が良い。</small>	奈良冷えや托鉢の僧脚を踏む <small>僧も寒さには...。厳しい寒さと修行の中のユーモアがいいです。京都や奈良は、盆地ゆえの底冷えに見舞われます。仏道を修行する僧であつても、寒さには勝てないよう、人間らしい様子がユーモラスです。奈良の古い町並みや、多くの寺、僧たちを、思い起こさせます。</small>	初蝶や妻に供えし墓花に <small>無数の針が刺さる豆腐への目線に共感。</small>	はんなりと鶯餅の奥座敷 <small>季節の和菓子「うぐいす餅」をつくる奥座敷。京言葉のはんなりが効いて楽しい俳句になりました。</small>	きさらぎの雨砂時計ほどの音 <small>砂時計が新鮮です。砂時計の音に比喩した表現がうまい。音のしない砂時計が効いている。微かな砂時計の音が聴きたくなりました。静かな雨の音が、ひそかに近づく春の足音のよう。「砂時計ほどの音」の措辞が良いですね。春雨の表現がなるほどと思えました。</small>
伯男	能登航	秋谷風舎	しーしー	安田蝸牛	高原ひろし	齋藤鍵子	西村青夏	新井のり子	衛	幸子	ありぎりす	森佳月	ことは	やぶつばき

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
しーしー		風子			ひろし 絵夢		高原	山菜	ことは 伯男 ゆりあ みづる 朝香		ことは 小麦	幹子	ありがりす 山菜 京子 朝香	
新作のショーウィンドウ春日差 春のわくわくがいつぱい。	寒暁やくしゃみして過ぐ新聞屋	夢めざし漕ぎ出す小舟春の海 長閑な春の海から漕ぎ出す先には「世之介」が待っていますよ。	建国日水兵リーベニホニウム	この辺りかつて軍(いくさ)場草青む	涅槃図の余白へ猫の涙染み 涅槃図に猫がいないのを初めて知りました。	海鳴りの濤の逆巻く冬の海	針供養豆腐も供養してほしげ	迷宮のタフォオニの雫春の霧 タフォオニなんていうギリシヤの神様のような名前の石が出てくる俳句を初めて見たよ。	にぎやかに妻の客来て春障子 華やかな御婦人方のお話が聞こえて来るようです。楽しい映像。春障子が楽しそう。華やかな笑い声が聞こえてくるような温かな雰囲気があります。季語の幹旋が良い。	新調の電動キック春寒し	ふたりゐてひとりのやうや冬の雨 北原白秋の詩の一節を思い出しました。「二人デ居タレドマダ淋シ一人ニナツタラナホ淋シ」。外は雨、家には二人いるが会話を交わさない。だけど喧嘩しているわけではない。	ナポリ歌謡乗せて四温のキッチンカー 最近夫が入院していました。ナースの笑みが救いでした。	人出かな板場の忙(せは)し梅見茶屋 イタリアンキッチンカーと季語四温が明るく響きあつて楽しい句です。少し哀愁を帯びて明るいナポリ歌謡は、春先の物憂い気分にはぴったりです！ナポリ歌謡と四温の明るさが響き合っている。ゴンドラではなくキッチンカーに味がある。畑に一鍬入れたら土の臭いや色つや等を土の息とした措辞が良い。	
本橋稀香	和田イチ子	吉本雅明	中島走吟	俳爺	光雲2	後藤允孝	小林土璃	網野月を	荒一葉	ひろ志	ゆりあ	新曆文	河野凡士	青木鶴城

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年二月
		怒忘		六弦		怒忘 稀香 たか子		久夫		航	やぶつばき 走吟	しんい		曆文 鶴城	
緑児を背負ひて道草春田かな	梅の花山羊の赤子の立ち上がる	寒鰯や照れて焼かれて皿と皿 <small>「照れて焼かれて」の音の繰り返しが、心地よいと感じました。「皿と皿」という表現で、具体的な情景がいつそう浮かびやすいと感じました。</small>	細雪かそかに積むや夜のしじま	断崖のここが定めと咲く椿 <small>覚悟が感じられる力強い句ですね。</small>	白よりも紅椿選る後座の床	鬼の豆片手に余る歳となり <small>ちよつとユーモラスで、ほがらかな笑いの生まれる一句だと思いました。おいくつかしら？、手の大きさは？、いつからこぼれるようになったの？など、余白を味わえる一句と思いました。お年を召した方の鬼やらいですね片手にあまる豆の表現が上手い。老いを上手に表現した句であります。同感です。わたしの夫も昔は声も大きく豆もすべて撒きおえていました。</small>	雪道へ先に降る影春の雪	日向ぼこ戦ばなしや媪がた <small>縁側で戦時中の話をしている媪たちが映画のようで感動しました。</small>	なにもせず孫と語るや春隣	仮設小屋今夜はやはり鰯大根 <small>春の雪は大きく地面に届く前に影をおと。</small>	ジャツカルを決められバレンタインの日	うすべにの京の干菓子や春めけり <small>干菓子の色彩がポイント。 ラグビー用語のジャツカルとバレンタインの取り合わせの妙！！ ジャツカルというからは女性から猛烈なアタックがあつたのでしょう。それを喜ぶ作者の顔が浮かびます。</small>	春の雷窓に閃光つづけざま	料峭や神社に祈る腰深し <small>腰深しで、心から祈る様子がわかる。丁寧な祈る様子が感じられる。</small>	
日高道を	中西みずほ	平野久夫	倉田詩子	佐藤幹子	みづる	霜里	石関六弦	絵夢	寒立馬	渋谷きいち	森下山菜	龍野ひろし	しんい	後記朝香	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
風子 稀香		しんい 音思 寒立馬		凡士	一葉 小麦 走吟	絵夢		ことは 高原 伯男 ゆりあ 喜夫 鶴城		きいち				
流水や罪をつぐなう牢屋窓	寒鴉追えど近きに窺えり	日向ぼこ一刻無我となりてをり	空っぽの厩舎の匂ひ牡丹雪	椿落ち村の地蔵の華やげる	薄氷や村の地蔵の欠け茶碗	エコバツク野菜溢れて春めきぬ	生きており古希過ぎてさへ落し角	寝たきりの母に一匙日脚伸ぶ	春眠や5分スヌーズもう一度	チャージ機のスイカ呑み込む寒の明け	一つだけ買ふなら水菜嵩張れど	初午市值切り上手な好々爺	手びねりの徳利お猪口雪見酒	ニン月や届くメールは「サクラチル」
ありぎりす	衛	幸子	やぶつばき	森佳月	ことは	木村小麦	持永喜夫	羽島秀子	かげろう	岡本たか子	小林京子	丸山マスミ	小野町子	染谷風子

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
		航					一葉 俳翁 ひろ志 京子 鶴城				光雲2 マスミ	喜夫	霜里 しーしー たか子	光雲2 しんい ひろし みづる かげろう 航
柘植材のカスタネットや春月夜	冬虫やほそき余生に恋々と	踏切の開いて春暖うごき出す <small>踏切が開いて春の人が一斉に動き出す。</small>	浅き春回らぬ水車古き白	寒明けや静々揺るる鯉の鰭	蘆焼きの煙のなかを春立ちぬ	峠まだ四駆の欲しき雨水かな	モノクロの想ひ出たぐる日向ぼこ <small>「モノクロの想ひ出」の措辞に過ぎ去つた長い時間が窺がえる。ひとりの日向ぼこに現れる過ぎし昔は確かにカラーではない。日向ぼこが誘う気分、モノクロと日向の対比に工夫が見られる。モノクロの思い出の措辞が良い。</small>	写真家の野鳥待つ池春浅し	料峭や流木を背に土地の人	岸近い羅漢の岩に春の波	水嵩の増すせせらぎに春を聞く <small>下五の春を聞くがこの句の肝。春になって川の流れも豊かになりせせらぎも聞こえるようになった。せせらぎの音に春を感じた。</small>	足音が聴こえてくるよな花の頃 <small>春が音をたててやって来る。スツキリしていいですね。</small>	お下がりジャンパー羽織り初受験 <small>お下がりに福が宿っていますように。合格した人のジャンパーかな？兄はこのジャンパーを着て希望校に合格。弟もこの縁起の良いジャンパーを着て希望校目指し受験している。</small>	空よりも空の色なり犬ふぐり <small>眩しいくらい碧が青空にはえる。表現の巧みさ。正にその通り、いつも美しく晴れたそらの色そのもの。上五中七の表現がうまい。大空の青と足元の小さな花の青。</small>
網野月を	ゆりあ	ひろ志	青木鶴城	新曆文	河野凡士	秋谷風舎	伯男	能登航	高原ひろし	しーしー	安田蝸牛	新井のり子	齋藤鍵子	西村青夏

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
秀子	一葉	忘怒 霜里 ありぎりす	ありぎり す	小麦		允孝 町子	稀香	みずほ	かげろう	凡士	蝸牛 久夫 ひろし 絵夢 秀子	かげろう	蝸牛 允孝 マスミ 音思 寒立馬 町子	俳翁 のり子 允孝 風子 六弦
ひねりつつメビウスの帯日向ぼこ 季語との取り合わせが面白い。	春泥の靴搔きおとすヒユツテかな 春山登山の工程まで目に浮かぶようで季語が効いている。	今月の薬が余る二月尽 病院の薬はおそらく週単位で処方されるので、2月は4週分の処方だと余ってしまうのだなあと思いつつ、2月は4週分の処方だ、来月調整するのかしら。二月ならではですね。2月が短いからあまつちやつた。薬が手放せない日常をうまく表現。	抱擁に春の炬燵の脚が邪魔 恋の季節ですね。炬燵の脚はほんとは邪魔（笑）	はくれんの冬芽のうぶ毛無調色 寒さしのぎ且つ知人に会って時間を取られることを防ぐ為に帽子を目深木かぶっている前傾姿勢の主人公が見える。	ポストまで帽子目深に春寒し 抱擁の季節ですね。炬燵の脚はほんとは邪魔（笑）	老梅の年輪秘めて花真白 老木であろうとも木が枯れない限り毎年美しい花を咲かせます。大切になさうてください。毎年きれいに咲かせていたのだから。また今年もきれいな白い花を咲かせているのだろう。	幟立つ裏から見ても春は春 春は左右対称の文字であることを気づかされた。裏から見ても春は春の言い回しが面白い。	バス降りてぐるり見上げる冬の星 狭いバスの中から外に出ると、空には満天の冬の星。凍て星は輝きを増し、作者を一気に別世界へと誘いました。対比が効いています。	菜の花やとほくに霞む国後は 「は」で終わる下五の余韻の持たせ方がよい。	牧牛の耳標光る牧の春 牧開きの解放感を耳標に焦点を当ててうまく表現。	念入りに顔を洗ふや恋の猫 恋猫のユーモラスな姿が想い浮かびました。春になり猫がそわそわしている様子がよくわかります。繁図のお釈迦さまの故事が生かされていて楽しい句。表現が面白い。「息」という表現がいい、生命の存在を思わせる。	竜神の目覚め諏訪湖の御神渡り 比喩表現がうまくいつている。	春耕や起こすひと鋤土の息 土は耕すことによつて息を吹き返すのだと思ひ知りました。春に向くて田や畑に息を吹き込む様がでています。やつと春耕の時が来た。硬くて冷たかつた畑の土も一畝入ると待つてましたと命の息吹を吐き出した。春の息吹を感じます。春の畑の土の息吹が感じられる。今年も豊作を願つて耕している。	青空へ先を争ふしやぼん玉 吹き出された泡玉の動きをさらりと詠まれ清しい句。「先を争ふ」がいよいよしやぼん玉が先を争うように表現されています。しやぼん玉も直ぐに割れずに青空まで飛んで行きたいに違いない。先を争う先に春がありますね。
絵夢	龍野ひろし	渋谷きいち	森下山菜	本橋稀香	しんい	後記朝香	中島走吟	和田イチ子	吉本雅明	後藤允孝	俳翁	光雲2	荒一葉	小林土璃

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
町子				のり子			蝸牛	きいち 朝香	しーしー		走吟		たか子	みずほ
余寒なり未来予想に眼を瞑り	立春も過ぎてはまだ寒さを感じます。日本の世界の未来は考えたくない。でも何とかしたい。	春兆す耳吹く風のそよそよと	「八海山」の酒瓶下げて雪の道	吹き溜りの清められゆく雨水かな	訃報聞く割るに割られぬ寒卵	寒夜読むからゆきさんの物語	両の手で撫づる土塊春浅し	うたかたの想ひを流す雪解川	寒卵コツンと割って朝の粥	冬の雨やだ小走りの駐車場	白馬岳雪形の駒走り初む	紅白梅目出度きことのあるらしき	春の陽や受験の孫の笑みあふる	村中の雲流れたり春一番
羽島秀子	かげろう	小野町子	小林京子	丸山マシミ	中西みずほ	染谷風子	日高道を	佐藤幹子	平野久夫	倉田詩子	霜里	みづる	寒立馬	石関六弦

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	水明インターネット句会（選句・選評） 令和六年二月
											今回記載漏れの句が有りましたので左記に句を披露させて頂きます。大変申し訳ありませんでした。	伯男 ゆりあ 幹子 寒立馬	幹子		
									アメリカのドラマの 主演無敵雪	氷持つ子の顔なんとおぼろげな		樽を寝かし釣り糸揺らす春の海 <small>のんびりとした一人の時間。長閑けしの極め付き。小舟を止めて釣り糸を垂らす春の海と、釣り人の長閑な景が浮かびました。17音が示す光景、春の海のまったり感がよい。</small>	団子買ひバレンタインの日の土産 <small>バレンタインと言えばチョコレートかケーキが定番ですが、和風の団子、いいですね。</small>	銀盤のエッジの音や春の宵	
									太田怒忘	太田怒忘		持永喜夫	木村小麦	岡本たか子	